

子育て支援プログラム「あそびの森」実践報告〈10〉

－平成25年度実施プログラム－

内山尚美・大西信行^{*1}・佐藤朝美^{*2}・篠田美里・白山真澄・杉山 章^{*3}・杉山喜美恵
高橋摩衣子^{*3}・田中ヒロ江^{*3}・藤垣和博^{*3}・古里貴士^{*4}・三羽佐和子・山田 隆^{*3}・若杉雅夫^{*5}

1. 実践の概要

子育て支援プログラム「あそびの森」の実践活動は、「地域の親子・学生・教員」が協働でプログラムを実践し、「育ちあう」という開設時の目標を受け継ぎ、平成25年度で10回目を迎えた。親子・学生・教員の入替りは毎年あるものの、地域の子育て支援に対するニーズに応えるべく、学生の実践力向上を期待し実践してきた。

学生の「保育実践力向上」に対する取組は、松山(2010)、斉藤・大木(2013)のように、授業の工夫によるアプローチと、本取組のような大学内で子育て支援プログラムの場を設定するアプローチ等様々な取組が挙げられる。本学「あそびの森」のようなアプローチとしては、帝京科学大学の取組があり、活動の立ち上げ、実践について報告されている。(木村ら, 2012)本取組を適切に評価していくためにも、今後、他大学の状況も把握していく必要がある。

本年度の参加者(表1)は、月例プログラム(全11回)995人、その他のプログラム610人、合計1,605名となった。昨年度は、月例プログラム(全12回)1,494人、その他のプログラム(ペープサートを観る会のみ)は647人となっており、比較すると月例プログラムの開催回数が1回少なかったものの参加人数が499人減少した。プロモーションへの対策が必要である。

さて、本学には短大部に幼児教育学科、四大部に人間関係学部子ども発達学科があり、それぞれが保育士養成課程・幼稚園教員養成課程を開設している。それぞれに専任の教員を配置しているものの、四大部の教員数は短大部の教員

数より多い現状である。

本年度の実践上の課題として、できる限り持続可能な体制を整えることが挙げられた。本活動をできる限り継続し提供していくことが、地域社会への貢献となると共に実践的な養成課程を持續していくことになる。それには、教員一人ひとりが本活動の価値を理解し実践すると共に、教員一人あたりの実務負担を軽減することが必要であると考えた。

そこで、年度の当初に双方の学科へ着任した教員に対し、本活動のもつ価値と運営上の手続きの説明を行い、本年度は、全11プログラムを計画した。その内の6プログラムを短大部教員が、5プログラムを四大部教員が担当した。前年度は、全12プログラム中、四大部教員は3プログラムの担当であったことから、本年度は四大部教員が実施する割合が上昇した。形式的には持続可能な体制整備ができつつあると言える。

平成25年度あそびの森プログラム

<月例プログラム>

- ① あそびの森にお花を咲かせよう！
6月1日 杉山喜美恵
- ② おもちゃを作ろう
6月29日 田中ヒロ江・大西信行・
佐藤朝美・山田 隆
- ③ 夏まつりを楽しもう！
7月13日 古里貴士
- ④ おんがくかいごっこ
8月24日 篠田美里
- ⑤ 絵の具でベタベタ遊びをしよう
10月12日 三羽佐和子
- ⑥ 秋を楽しもう
11月2日 内山尚美

^{*1} 元東海学院大学, ^{*2} 愛知淑徳大学, ^{*3} 東海学院大学,
^{*4} 東海大学, ^{*5} 浜松学院大学短期大学部

- ⑦ お話の世界を楽しもう
11月23日 藤垣和博
 - ⑧ クリスマス飾りを作ろう／懇話会
12月7日 白山眞澄
 - ⑨ 手作り楽器でクリスマスコンサート
12月21日 高橋摩衣子
 - ⑩ 粘土遊びでクッキー作り
1月25日 若杉雅夫
 - ⑪ タブレット端末(iPad)で絵本をつくろう！
2月8日 佐藤朝美
- <その他の活動>
ペープサート劇を観る会

2. 活動報告

プログラム担当者による活動報告を掲載する。
プログラム①「あそびの森にお花を咲かせよう」
実施日・会場

平成25年6月1日(土) 保育実習室
AM 10:00～11:45 PM 13:30～15:15

ねらい

自分たちが使う場所を自分たちで飾ることで
親しみを持つ

参加人数 (子ども77名/保護者50名)

参加スタッフ

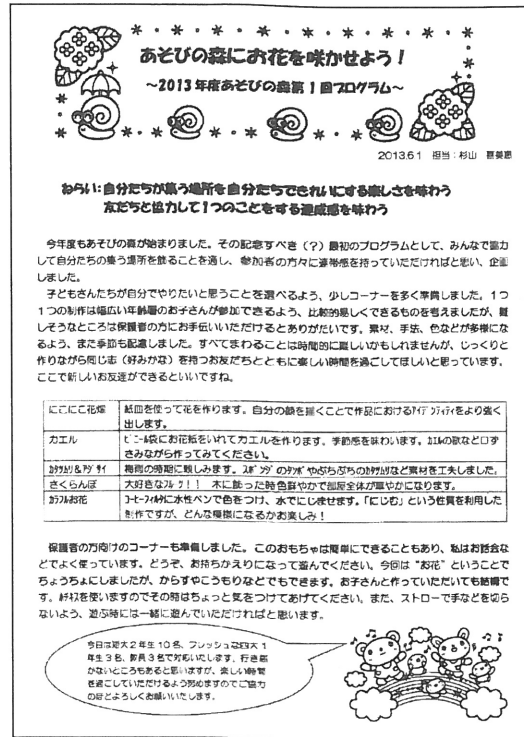
教員3名 学生10名, 四大1年生3名

内容

平成25年度第1回目のあそびの森ということで、はじめて会う参加者が協力してできる活動をしたと考えた。そこで、自分たちがこれから何度か訪れるであろう「あそびの森」という部屋に親しみを持ってもらえるよう、自分たちで飾ることを計画した。また、梅雨という雨が多いうっとおしい時期であるが、楽しく飾ることによって季節を感じながら、うっとおしさを楽しさに変えられるとよいと思う。

ねらいにあった制作を保育雑誌等を参考に学生たちが自ら考え、にこにこ花畑、カエル、アジサイとかたつむり、さくらんぼ、カラフルお花という5つのコーナーを設定した。

活動内容が制作の場合、作ったものを持ち帰ることが恒例なので、パタパタちょうちょを持ち帰り用の制作とした。



当日配布したプリント

活動の流れは以下のようである。

- ①はじめのあいさつ
- ②大型絵本『はじめまして』
- ③あそび「かみなりどんがやってきた」
- ④製作・飾り付け
- ⑤歌「にじ」
- ⑥おわりのあいさつ

総括・考察

例年、製作は個人で行うことが多いが、これから使用するあそびの森を参加者「みんなで」飾ることにより、次回からの来場を楽しみにしたり、協力することで「仲間」という連帯感を感じてもらいたいと考え計画した活動であった。

参加者に年齢幅があるため、制作は比較的簡単なものから少し難しいものまで取りそろえた。また、参加者が自分のペースで進められるよう、早くできた子は別の制作に参加できるように遅速対応できるようコーナーの数を5つと決めた。

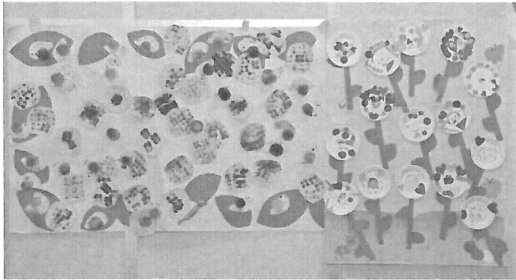
担当学生数が少ないため、安全には気を使ったが、2年生だけあって、子ども、保護者へのかかわり、前に立って進行すること、制作への安全配慮等考えられるようになっており、学生



学生の様子

の成長を感じた。

参加者は自分の好きなコーナーから作り始め、個性的な作品がたくさんできた。



↑カタツムリ&アジサイ、にこにこ花畑・↓カエル



プログラム②「つくって遊ぼう」

実施日・会場

平成 25 年 6 月 29 日(土) 保育実習室
AM 10:00 ~ 11:45 PM 13:30 ~ 15:15

ねらい

身近にある廃材を使って遊べるものを作ろう

参加人数 (子ども 120 名/保護者 55 名)

参加スタッフ

教員 5 名 学生 AM32 名 PM33 名, 4 大
1 年 9 名

今回製作した作品

午前 紙皿のカスタネット こま 魚釣り
登り人形 お散歩人形

午後 くるくるたこさん おさかなパラダイス

ストロケット ポックリ くちパッケン 企画・運営

今回のあそびの森は、担当学生にとって前年度に続き 2 回目ということもあり、流れやどんな活動が子どもに合うのかを考え、グループに分かれて材料を集め、試作しながら、すべてを学生たちで進めた。

4 回の練習では、全体の流れや子どもの動き、場の使い方を考え、進行内容を互いに確認し合い、全体のバランスも考えながら進めていくなど、学生の成長も見られた。しかし、作品作りでは、作るだけでなく、使って遊べるものにするために、動きや楽しさを追求しながら丈夫さも考えなければならぬところで、苦勞をしたようである。試作を繰り返してきた過程で学んだことも多くあったと思われる。

全体の流れでは、元気な活力が発散できる体操を入れたり、静かに座って絵本の読み聞かせを聞いたり、活動の広がりのために作品の紹介をしたりするなど、いろいろなことを考慮して考えていたようである。

内容

気候もよく子どもの集まりも早かった。雰囲気作りをしようということで、魚釣りコーナーを解放しながら、来た子からすぐ遊べるようなことも考えて迎えた。

一番には、子どもも保護者も参加できるように、前回人気だった体操「エビカニクス」を始めると、参加者も多く活気が出てきた。今回は学生の数が多いため、立ち位置や姿勢を低くすることに注意するような話し合いもしてあったため、気になる学生の動きは少なかったように思う。

製作遊びでは、コーナーに分かれて学生も分担し合って進めて行った。子ども達は学生の説明によって興味をもった場所へ行くものの、一つ作り上げると遊ぶと言うより次の作品作りに行く子が殆どで、なかなか作った物で遊ぶ子が居なかった。これは、学生が作る場所で手を取られてしまい、一緒に遊ぶ配慮ができなかったためかも知れない。

もう一つの反省は、参加する子どもの数を予想して準備したものの、子ども達を作ることに集中したために、「ぽっくり」や「くるくるた

こさん」の材料が足りなくなり、最後の方では少し雑な作品になってしまったことである。子ども達は次々に作った作品を、名前を付けたビニール袋に入れて持ちながらの作品作りになった。最後に数人の作品を見せて遊び方の説明をしたので、家に帰ってから遊んでくれることと思う。その後の読み聞かせの時、子どもが作品を手を持っていたが、親さんに渡すと集中できたのではないか。など反省もあったが、これも学生には学びとなった。



総括・考察

あそびの森は、子育て支援と学生の学びの場。今回その点ではとてもよい機会となったと思われる。今日の活動の中でも「こま」「ぱっくり」「登り人形」などは、お父さんやお母さんが昔経験したことのある遊びではなかっただろうか。参加して下さった方が、昔を思い出し、今日の経験を生かして家庭でも子どもと一緒に作ったり遊んだりして欲しい。

廃材として捨ててしまうものを、親子で楽しく手をかけて遊べるものにするには、今の子どもにとって自分で作った物で遊ぶ楽しさを味わう（何でも買わない）。物を大切にする。などの意味からも、ぜひ家庭でも取り入れて欲しい活動である。

幼稚園や保育所でもよく行っている活動では

あるが、今回親子で活動したことで、家庭でも取り入れていただけるのではないだろうか。学生もこれから保育者や親になったとき、この経験を忘れずに大切にしてほしいと思っている。

プログラム③「なつまつりを楽しもう！」

実施日・会場

平成25年7月13日(土) 保育実習室
AM 10:10～11:40 PM 13:40～15:10

ねらい

なつまつりに参加することで楽しみながら季節の行事を体験する

参加人数 (子ども84名/保護者53名)

参加スタッフ

教員3名 学生27名(短大17名, 四大10名)

内容

この回は、「なつまつり」をテーマに、複数のブースを自由に遊びまわりながら、季節の行事を体験することを主題とした。今回は実施日が就職説明会と重なったため、短大の古里ゼミ(2年生)を中心にしながらも、他ゼミの2年生に協力してもらい、四大の学生を加える形で活動を行った。活動の内容は次の通りであった。

- ・あいさつ
- ・てあそび
- ・えほん
- ・なつまつり

ボールすくい さかなつり おめん

わたあめ わなげ

- ・おんど(ドラえもん)

「なつまつり」の時間は、各ブースの学生が活動内容を説明した上で、子どもたちには自分の興味のあるブースで思い思いに遊んでもらうようにした。今回はゲームに取り組むものを3



ブース（ボールすくい、さかなつり、わなげ）、制作を行なうものを2ブース（おめん、わたあめ）準備していた。おめんは、丸く切られた画用紙に絵を描いておめんをつくるというもの、わたあめは、透明のビニール袋に絵を描いて、その中にわたを詰めるというものであった。子どもたちはどちらかという制作活動を行なうブースに集中していたようであった。



総括・考察

活動をふり返って、次のことが言えよう。

- ドラえもん音頭の際は、事前の打ち合わせ不足が活動に出てしまい、なつまつりを終えてからドラえもん音頭を始めるまでの時間が間延びしてしまった。しかし、昼休みの間に反省と打合せをすることで、午後の活動の際には修正できていた。この点、一回一回の活動の振り返りの重要性を物語っている。
- 上記のように、ゲームよりも制作活動の方に子どもが集中する場面が見られた。これはおめんやわたあめの制作に時間がかかることが理由として考えられるが、それに加えて、ゲームがいくつかの難易度を準備して、さらに楽しむことができるように工夫の余地があったということも一因であるように思う。この点は、今後の課題として残った。

プログラム④ 音楽会ごっこ

実施日 平成25年8月24日(土)

会場 10:00～11:45 保育実習室

ねらい

- ・音楽鑑賞をメインにしたプログラムを構成し、幼児に生の演奏（マリimba合奏）を聴く機会を作る。
- ・マリimbaの演奏に合わせて生活の中にある道具から出る音を楽しむ。
- ・親子で、体を触れ合う遊びを体験し、又、お面創りをするを通して遊びを共有する。

参加人数 (子ども34人／保護者25人)

参加スタッフ 教員5名 学生24名

内容

当日のプログラム

- 1) すきなこーなーでおねえさんとあ・そ・ぼ
 - ・ころころぼーる
 - ・とびでるリボン
 - ・ピョンピョンウサギになってゴムとび
- 2) ごあいさつ
- 3) てあそび「ちいさなにわ・こぶたのさんぽ」
- 4) ペープサートげき「さる犬合戦」
- 5) おやこあそび「ばすにのって」
- 6) おめんをつくろう「さる・うさぎ・ねこ」
- 7) おんがくかいごっこ
 - ・聴いてみよう
 - 「さんぽ・ギャロップ・アンパンマン」
 - ・歌ってみよう「こぶたぬきつねこ・さんぽ」
 - ・鳴らしてみよう。
 - 「山の音楽家・おもちゃのチャチャチャ」
- 8) 絵本「おかしなかくれんぼ」
- 9) さようなら



みんなで歌いましょう —こぶたぬきつねこ—

総括・考察

8月の開催は短期大学部の学生は施設実習と重なり、開催日にゼミ生全員が揃うことは難しい時期である。今回もゼミ生がこの日を確保するために実習先の変更までもして臨んだのであった。

今回は昨年度の反省を踏まえ、2点を改善した。まず、会場については、受け入れ人数は少なくなるが子どもが自由に動きまわれる空間の確保を優先して、保育実習室「あそびの森」とした。また、演奏時も自由な姿勢で、聴く・歌う・合奏に参加するとし、親子で製作する部分も加えた。

もう一点は、開始前の時間に「遊びタイム」を準備した事である。午前の開催はどうしても集合時間に間に合わない家族が多く、当日の参加家族がほぼ揃うのは開始後30分くらい過ぎてからである。そこで今回は開始前に「おねえさんとあ・そ・ぼ」のプログラムを設けた。その時間は30分以内とし、全体でのご挨拶を参加家族がほぼ揃うまでとした。その間室内遊具の外に3つの遊びコーナーを作り、学生全員が子どもと関わって遊ぶ時間とした。

ペープサート劇（ペープサート劇と遊びの森担当のゼミ生とはメンバーが異なる）は施設実習の関係で人数が揃わず、一人で何役も掛け持ちながら一生懸命演じた。臨機応変に対応できた事は今後の自信に繋がると思う。

音楽会ごっこは子どもたちが耳にしたことのある「あんぱんまん」や「さんぽ」を聴く曲とし、あとの曲は、子どもたちも歌ったり、こちらが用意したペットボトルや紙コップに鈴を入れたものなどの生活用品から作った楽器と本物の楽器（鈴・タンバリン）を使って一緒に合奏したり歌ったりと楽しんだ。おねえさんが本物の楽器を演奏している姿に子どもたちは夢中になり、楽しんだ。学生も音楽が持つ力を再確認したと同時に音楽の演奏技能を向上させる必要性を感じてくれた。今後の音楽技能の練習意欲に繋がっていくと感じた。

遊びの企画に当たっては、自分たちの一番得意とするもの、自信のあるものを核にプログラムを作成するとしている。今回の篠田ゼミ

生の共通して得意とするところはマリンバ演奏であった。それを核にして子どもたちが楽しんで夢中になってくれる遊びとプログラムを作ろうと、意見を出し合って決めていった。マリンバの演奏には随時4人は確保しつつ、進行役や内容を決めていった。どのプログラムも自主的に役割を決めていけたことは昨年、半年間共に学んだ先輩から受け継いだ大きな財産であった。このあそびのもり活動ならではの内容が学生の主体性を育てていると毎年ながら感じている。

今回は、真夏の季節を考慮して午前の部のみとした。暑い日であったが、何とか午前中は冷房の効果もあり、楽しい時を過ごすことが出来た。

毎回のことであるが、安全確保のための様々な係りの協力があって無事終えられている事を感謝している。今回も季節柄、駐車場係りは炎天下での対応となった。（係の先生・学生さん本当にご苦労様でした。感謝いたします）



とびでるりぼん ーわあ! できたあー!!

プログラム⑤「えの具でべたべた遊びをしよう」

実施日・会場

平成 25 年 10 月 12 日(土) 保育実習室
AM 10:00 ~ 11:45 PM 13:30 ~ 15:15

ねらい

- ・絵の具のべたべた感を味わったり、手や足でも絵が描ける楽しさを味わったりする。
- ・手型、足型でできたデザインを楽しむ。

担 当 三羽 佐和子

参加人数 (子ども 82 名/保護者 47 名)

参加スタッフ 教員 5 名 学生 30 名

内容

はじめの会 (話・手遊びなど)

体操（ぼんぼん体操）

絵の具遊び

絵本の読み聞かせ

（AM：にじいろのさかな，PM：ほくのくれ
よん）

終わりの会

<遊びの様子>

学生がどのように遊ぶのかを実際にやって見せたことと、遊びとしては単純な遊びなので、取り組みはやすかったようだ。殆どの子どもは、家ではできない手や足に絵の具を付けて遊ぶことが嬉しいようで、汚れを気にすることなく、白い所を探してはベタベタと楽しんでた。

中には汚れることを嫌う子が見られたが、個人的に学生がかかわることによって全員が取り組めた。

手型足型を画用紙に写し、それを切って、黒い紙に貼り付けるとき、1枚の紙に家族全員の手型をとり、「いい記念になった」とにこにこ顔で持ち帰っていった。

手遊び「たまご」「いわしのひらき」「やきいもグーチーパー」、体操「ぼんぼん体操」等は、学生が子どもの様子を見ながら、ゆっくりやってみせたり、ポイントのところで声をかけたりしたので、子どもたちは学生を見ながら楽しそうに行っていた。

<総括・反省>

後期始まって間がないプログラムで、話し合いや準備等の時間が十分でなく、うまくいかどうか心配したが、思いの外スムーズに運んだし、子どもたちも楽しんでた。学生にとっては1年生の時2年生に指導されながらも行った経験があったので、様子がわかっておりできたことだと思う。何度も経験することは何事においても必要である。

活動が始まる時に子どもたちを集めるのに少々時間がかかり、「走り回っている子どもたちを、引きつける工夫をしていくことが大切だと感じた」と学生の反省にあった。経験しながら、子どもの心をつかむテクニックを身につけていくと思う。

「絵の具遊びの説明の時、実際に実演することで子どもたちは何が行われるかと不思議に

思い、興味を示している姿を見ることができた。言葉で説明するだけでは伝わらないこともわかりやすく伝わっていくのでいいなと思った」と、担当学生が工夫をしながらの魅力的な導入方法を他学生は学んだようだ。

絵の具遊びに取り組めない子どもたちへの働きかけで、「私が『やってみる』と声をかけたら小さく頷いてくれた。そして、右手の人差し指だけならと、一緒に絵の具をつけて遊んでくれたのが嬉しくて印象的でした」と感激していた。無理せず、工夫し、子どものちょっとした進歩に喜ぶ学生の姿に、きっと子どもの心をつかむ素敵な保育者になるだろうと感じた。

あそびの森の学生にとって大切な経験の一つに保護者とのかかわりがある。「保護者も同伴でとても緊張したけれど、下の子がいる母親の手伝いをしながら、『元気なお子さんですね』と話しかけると母親が嬉しそうに頷いていた。保護者の心をつかめるように、保護者とのコミュニケーションの取り方も、今後学んでいきたい」との学生の反省に、さすが2年生は保育者としての意識が高いと感じさせられ、あそびの森がよい経験となっていると思った。

プログラム⑥「秋を楽しもう」

実施日・会場

平成25年11月2日(土) 保育実習室

AM 10:00～11:45 PM 13:30～15:15

ねらい

- ・身近なものを使って、自由に楽しく遊ぶ。
- ・歌、リズム遊び、体操、絵本などを通して、親子と学生が触れ合う。

参加人数 (子ども63名/保護者40名)

参加スタッフ 教員6名 学生22名

内容

プログラム

1. 始まりの会・あいさつ
手遊び「大きな栗の木の下で」「おいもさん」
2. 『美術の秋』
新聞遊び、ダンボールへお絵かき
3. 『音楽の秋』マリンバ演奏・リズム遊び
「おもちゃのチャチャチャ」
「ミッキーマウスマーチ」

「アンパンマンのマーチ」

「さんぽ」

4. 『体育の秋』

体操「ディズニー体操」

5. 『読書の秋』 大型絵本の読み聞かせ

「あめのひのえんそく」

「ねずみのいもほり」

6. 終わりの会・あいさつ

今回は「秋を楽しもう」というテーマのもと、『美術の秋』『音楽の秋』『スポーツの秋』『文学の秋』という4つの秋を楽しめるプログラムを提案した。

『美術の秋』では、あそびの森の中に2つのコーナーをセッティングした。一つは「新聞遊び」である。新聞紙を破き、その際の感触や音を楽しむところから始まった。次第に活動がダイナミックになり、兜や飛行機、大きな傘を子どもたちと学生との共同作業で作成する姿が見られた。もう一つは「ダンボールへお絵かき」である。あらかじめ床へダンボールを敷き詰めて、秋に関連した絵を学生が描いておいた。ボスカーやクレヨンを使って、自由な姿勢で自由な大きさで子どもたちの絵が描かれていった。学生たちが描いた絵に子ども自身が絵を描き加えて、一つの物語を作成した子どもたちもいた。

『音楽の秋』では短大生のマリンバ演奏に合わせて、ペットボトルマラカスでリズム遊びを楽しんだ。このペットボトルマラカスは、ペットボトルで作成したビーズを用いた。学生たちは廃物利用の手作り楽器作成を通し、音を作る楽しさを自ら体験した。また、当日は学生たちのマリンバ演奏に合わせて、子どもたちもペットボトルマラカスで参加することにより、より音楽を楽しめたようであった。リズム遊びの展開としては、最初は指定の場所でリズム打ちをし、次第にリズムや動きの範囲を広げるなど次第に規制を緩める形で行った。最後の曲では子どもたちが自由に自分のリズムや動きをするようにプログラムを組んだ。

『体育の秋』では「ディズニー体操」を行った。学生自身がいまいち体操を身に付けていなかったため、子どもへの伝達方法に若干問題があった。学生たち自身も「消極的になってしまった」

という感想を持った。また体操を1回しか行わなかったために、子どもたちの未消化感は否めなかった。

『読書の秋』では秋が設定になっている大型絵本を読み聞かせした。読み方の抑揚を付けているとは感じられるものの、子どもたちから上がってくる小さな声に対応することが難しかった。体を動かす活動から、だんだん終会へ向かうように、気持ちを落ち着かせるような活動にすることが出来た。

総括・考察

今回の主担当の短大2年生は、昨年手伝いとしてあそびの森を経験していたので、事前にある程度イメージを作ることが出来ていたように感じる。ただ実際に会を運営することによって、新たに見えてきた部分も多々あったようである。また、プログラムを午前と午後の2回経験することが出来たため、午前の反省を午後に生かし反映させることが出来たため、学生たちにとってとても良い経験になったと感じる。

このように学生たちが実際に自分たちで企画・準備・運営・片付けを行うことにより、机上では学べない多くのことを学ぶことができ、充実感も味わえたように見受けられる。今回のこの経験が、大きな力となったことを実感した。これが将来、保育の現場で活かされることを期待している。

プログラム⑦「お話の世界を楽しもう」

実施日・会場

平成25年11月23日(土) 保育実習室

AM 10:00 ~ 11:45 PM 13:30 ~ 15:15

ねらい

秋を題材とした絵本から秋を題材としたおもちゃを作り遊ぶことで、親子で楽しい時間を過ごす。

参加人数 (子ども51名/保護者34名)

参加スタッフ 教員3名 学生19名

内容

日本の秋は気候的に過ごしやすく、様々な自然の恵みがもたらされると共に、食欲の秋、運動の秋、読書の秋などの言葉に象徴されるような、様々な人間的な活動も活性化されやすい季

節である。本活動では、秋の絵本を導入に秋のイメージを広げながら、製作や自然物を使った遊びなどを展開した。

プログラム

1) オープニング

2) 製作・遊び

①キーホルダー作り

(プラ板とトースターで作る)

②マツボックリつり

(竿,糸,金具を使ってマツボックリを釣る)

③ポップアップカード作り

④マツボックリ投げ(的当てをする)

⑤秋の魚釣り

(磁石とクリップを使いサンマをイメージさせる魚を釣る)

⑥マラカス作り

(フィルムケースにドングリを入れて音を出す)

3) エンディング

取組は、学生の主体性を大切にした。学生はグループに分かれ、それぞれのコーナーを担当した。学生全体的話し合いの中で「お話の世界を楽しもう」「秋」という活動を貫くテーマを共通理解し、プログラムの活動内容は基本的に学生に任せた。また、プログラム全体の流れを「全体→コーナー→全体」の構成にし、共通理解した。

教員は、次のような点に留意しながら学生指導を行った。

- ・各グループの進度の確認をする
- ・各グループに対してテーマを確認し、全体としてのまとまりを保つことができるようにする
- ・最終的決定は学生がすることを前提として、各グループが活動を作り上げていく際に出てくる課題に対して助言をする
- ・これまでの学び(他の講義も含む)を活かすこと
- ・授業時間内にグループで試行錯誤する時間をできる限り保障する

学生からは、授業時間で活動する中で「どのような場面をつくったらよいか」、「どちらの色がいいか」「どのような言葉を言えばよいか」

「子どもにとっては難しすぎないか」「子どもが集中してくれない場合はどうしたらいいか」等、大きな問題から小さな問題まで様々な助言が求められた。その都度、学生に直接的な解決の糸口を与えることもあったが、基本的にはそれぞれの学びを振り返るよう助言した。学生は、それぞれのグループで課題解決を進めていった。また、グループの中には、材料の購入、製作の準備、リハーサルなど、自主的に授業時間外に集まるグループが出てきた。

当日、参加した子どもたちは、ほとんどの子どもたちと保護者がすべてのコーナーを回り楽しんだ。保護者にすすめられて恐々マツボックリに触る1歳程度の子どもや、大量に用意されたドングリの感触を楽しむ子どもがいたりするなど、室内ではあるものの秋の自然を感じる事ができた。

学生の中には緊張しているものもいた。しかし、そういった学生も、活動を通して子どもたちとかわることで緊張がほぐれていく様子が見られた。また、想定外の反応を示す子どもに対しても、臨機応変に対応する学生がいたり、そういった学生の対応が他の学生にも広がったりする姿が見られた。さらに、午後の部に向けて、午前の部の反省を踏まえて準備をしたり、子どもへの声のかけ方を工夫しようとしたりする姿が見られた。

総括・考察

本活動は、実践的な学びの場だと言うことができるが、保育士・教員養成にかかわる本学科においては、カリキュラム上の特徴になり得る活動であると考えられる。講義や演習形式など授業には様々な形式があり、学生の学びを豊かにするために各教員が工夫を凝らすにしても、やはり限界があろう。座学としての授業では見ることができない学生の姿を目の当たりにすると、実際に保護者や子どもたちの前に立つことが、学生の実践力を培うことにつながると感じた。

一方、このような授業では「実施することに価値がある」ことは、自明の理でもある。個々の学びにどのようにアプローチすることができるかについては、再考の余地があろう。

プログラム⑧「クリスマス飾りを作ろう！」

実施日・会場

平成25年12月7日(土) 保育実習室
AM 10:00～11:45 PM 13:30～15:15

ねらい

クリスマス・オーナメント作りを楽しみ、ツリーに飾ることで季節の行事に親しむ

参加人数 (子ども63名/保護者36名)

参加スタッフ 教員5名 学生29名

内容

季節の行事は生活に変化や潤いを与える。行事に参加して交流を楽しむことは、幼児にとって季節感を育み、経験を豊かにする貴重な機会である。特にクリスマスは、華やかさと楽しさがあふれ、子どもたちにとって欠かせない楽しいイベントのひとつである。今回のあそびの森は、身の回りの素材を使い簡単に楽しいクリスマス飾りを作って、ツリーに飾ろうという活動を中心に計画を立てた。ゼミの学生は、クリスマスにちなんだ手遊び、遊戯、クリスマスソング、大型絵本の読み聞かせなどのプログラムを準備し、役割分担をして当日を迎えた。

クリスマス・オーナメントは、幼児の発達段階に応じて楽しめるよう、3段階の難易度で5種類の製作を体験できるように考え、試作を重ねて、5つのブースと材料を準備した。

紙コップ長靴、色画用紙の長靴、鈴のついたトナカイ、折り紙サンタ、折り紙リースの5種類である。

参加した子どもたちはとても集中して熱心に制作する姿が印象的であった。ほとんどの子どもが、4～5種類の製作を楽しみ、家のツリーに飾るために完成したオーナメントをおみやげ袋に入れて持ち帰った。

この日は、子どもたちの活動と平行して、講師3名を招いて別室で保護者の懇話会を行った。和やかな雰囲気の中で、日ごろの子育ての喜びや悩みを語り合い、講師のアドバイスを聞いて、保護者にとっても充実した良い時間となった。

総括・考察

担当の学生は、今回はじめて「あそびの森」を経験するものが多かったが、それだけに一層新鮮な感動を味わえたようである。保護者は

別室のため、学生は一人ひとりの子どもたちに寄りそって、気配りをしながら丁寧に作り方や遊び方を教え、事後の反省では、製作に集中する子どもたちの姿に感動したという声が多かった。このように企画、準備、当日の運営から片付けまで、ひとつのイベントをやり遂げ、達成感を味わうことができる経験は、保育者の立場に立った時に、必ずや学生の自信と力につながることを期待している。



「子育て懇話会」(プログラム⑧と平行して実施)ねらい

- ・同年代の子どもを持つ保護者が集まり、子育てについて話し合い、自分の育児の参考とする。
- ・子育ての喜び、楽しみ、悩み等を、共通理解できる仲間と語ることで、気持ちを発散し、子育てを楽しむ醸成づくりをする。

ファシリテーター

渡里禎子 臼井 純子 中村 秀子
田中ヒロ江 三羽佐和子

内容

数人ずつのグループに一人のファシリテーター

ターが入り、進行役を務め、話をまとめた。

<話し合いの記録>

●ゲームについて

- ・1年生の男の子 ゲームをやりたがり、それを見て下の子もやりたがる。おもちゃであんまり遊ばない。父親がよくゲームをやっている。母親は自分が子どものことで面倒な時には、ゲームをしていると機嫌がいいのでついさせてしまう。
- ・お父さんが休みのときだけさせていると言う人
- ・3歳でもお父さんの携帯を使って遊んでいるなど

●甘えについて

- ・6歳でもよく膝に来る、何歳くらいまで親にべったりと甘えさせていいのか
- ・父親：今4歳だけど膝によく来る かわいくて仕方がない（女の子）
- ・兄弟で膝を取り合って喧嘩をすると怒れてしまう。
- ・お父さんが「年だし、一人でよい」という話に、みんなから兄弟はあった方がよいとアドバイス。

●テレビについて

- ・つけっぱなしになることが多い。本当は選んで見せる「時間を決める」ことがよいと思う。
- ・見たいテレビは集中してみる。朝でも早く自分で起きてみている
- ・ヒーローものは悪を倒す。そればかり見てはいけないうと思う。夫は気にしない。
- ・アメリカの小児科学会の勧告書で、「脳の発達にとって、2歳未満の子どもには内容に関係なく、テレビを見せるべきでなく、それ以上の子どもたちでも、親と一緒に番組を選択し、視聴時間をできるだけ短くすべきである。」との話に一同頷く。

プログラム⑨「手作り楽器でクリスマスコンサート」

実施日・会場

平成25年12月21日(土) 保育実習室

AM 10:00～11:45 PM 13:30～15:15

ねらい

- ・手作り楽器の制作を通し、創意工夫をしなが

ら自分の思い通りの作品を作る楽しさを体験する。

- ・作った楽器を手に合奏したり踊ったりすることで、自分で作ったものを様々な用途に使う楽しさを知る。

参加人数 (子ども54名/保護者32名)

参加スタッフ 教員6名 学生22名

内容

- ・ミュージックベル演奏「きよしこのよる」
- ・歌 (子どもたちと一緒に)
「あかはなのトナカイ」
- ・あそびうた
「ごんべさんのあかちゃん」
「サンタさんがおでかけするときは」
「なんてったってクリスマス」
- ・パネルシアター「ほしのクリスマス」
- ・手作り楽器作り
- ・合奏 (子どもたちと一緒に)
「あわてんぼうのサンタクロース」
- ・ダンス (子どもたちと一緒に)
「ウィンターワンダーランド」

総括・考察

- 今回は、大学3年生が担当した。2回の実習を経験している学生たちであり、子どもたちの前では臨機応変に対応していた。不手際があった時もそれを笑いに変えるなど、楽しい雰囲気を作ることなく進行することができた。
- 午前の部が終わった後の反省会では、学生から積極的に改善案が挙がった。特に安全面に関する事に細かい指摘がなされ、学生がしっかりと子どもたちを観察していることが伺えた。
- 今回は、課題として「サンタさんがおでかけするときは」「なんてったってクリスマス」という、二つのオリジナルのあそびうた制作を試みた。子どもたちが誰も知らないあそびうたであり、あそび方を伝えるのは定番の遊び歌以上に難しかったが、口頭での説明と、模造紙を使っての解説とを組み合わせることで、初めて遊ぶ子どもたちもすぐに楽しめるよう工夫ができた。
- 「コンサート」をテーマとしていたので、できるだけたくさんの学生が演奏に参加できる

ように分担した。中には音楽が得意ではない学生もいたが、それぞれが責任をもって練習に臨むことの大切さを学んだようだった。

プログラム⑩「粘土遊びでクッキー作り」

実施予定日・予定会場 平成26年1月25日(土)
※ノロウイルス流行拡大により中止。

プログラム⑪「タブレット端末(iPad)で絵本をつくろう！」

実施予定日・予定会場 平成26年2月8日(土)
※東海三県初降雪により中止。

＜その他のプログラム＞

活動名

「ペープサート劇を観る会—ペンギン座の公演—」

実施日

11/29・12/6・12/13・12/20・1/10・1/24・1/31

実施場所

・沖の橋保育所・ひよし幼稚園・蘇原西保育園
・雄飛ヶ丘保育園・長森幼稚園
・長森第2幼稚園・ながら幼稚園

実施時間 10:15～11:15

担当 篠田美里・白山真澄

参加スタッフ 教員2名 学生13名

参加人数 7か所 延べ610人

内容

プログラム

1. ごあいさつ
2. 手遊び
3. ペープサート劇
4. どうぶつたいそう
5. マリンバ演奏
6. 絵本
7. さようなら

ねらい

- ・前期に制作したペープサート劇を依頼のあった近隣の幼・保園に出張公演する体験を通して、自分たちの制作した劇が園児にはどのように受け入れられていくかを体験する。
- ・様々な園を訪問する体験を通して保育者と子どもの関わりを学ぶ。
- ・園児の前で演じたり話したりする体験を通し

て自身の保育技能を養う。

総括・考察

この活動は、本学と地域との繋ぐ目的で近隣の幼・保園に出張して「遊びの森」の一部を体験する催しである。その中で本学の特色であるペープサート劇を中心にプログラム構成をし、「ペープサート劇を観る会」と位置付けており、平成16年の「遊びの森」開設時から続けている活動である。この活動のもう一つの目的は学生の主体性を育てることにある。

今年度は7つの園を訪問した。毎回、プログラムを進めるのに必要な役割（進行役・各プログラムの担当など）をローテーションし、学生がまんべんなく各々の役割を体験できるように分担した。学生は本番（子どもの前で実演）中で学んでいくのでとても意欲的に取り組めた。何より、子どもの反応を受けつつ次へ進めていけるのでとても楽しく進められる。時には思いがけない反応にどぎまぎしているときつと助け舟を出している。帰りのバスでは実に活発に討論が繰り広げられた。そして、次の自分の役割に向けて色々な案が練られていった。お月を挟んだにもかかわらず、全て学生主体で進めることが出来た。そして、学生は大きな自信と達成感を持ち、今後山のように出てくる課題に対して、解決の糸口を見出す方法を感じ取って授業を終えることが出来た。

尚、本学の保育士取得カリキュラム改訂によりこの授業は今回で終わられることとなった。新たな形で地域との結びつきが継続されることを期待している。

3. 資料

◇運営の記録

(短大部)

内山尚美 篠田美里 白山真澄 杉山喜美恵

古里貴士 三羽佐和子

(四大部)

大西信行 佐藤朝美 杉山章 高橋摩衣子 田

中ヒロ江 藤垣和博 山田隆 若杉雅夫

◇事務

(短大部) 三羽佐和子

(四大部) 杉山章

◇名札作成
松尾良克

◇出席カードの製作
若杉ゼミ

<執筆担当>

実践の概要 杉山章

プログラム① 杉山喜美恵

プログラム② 田中ヒロ江

プログラム③ 古里貴士

プログラム④ 篠田美里

プログラム⑤ 三羽佐和子

プログラム⑥ 内山尚美

プログラム⑦ 藤垣和博

プログラム⑧ 白山眞澄

子育て懇話会 三羽佐和子

プログラム⑨ 高橋摩衣子

ペープサート劇を観る会 篠田美里

参考文献

- ・木村龍平 花園 誠 大沢 裕 神戸洋子 浅倉恵子, 学生の「子育て支援活動」参画による保育実践力の教育効果の検討, 帝京科学大学紀要, Vol. 8, pp.203-212(2012).
- ・松山由美子, 保育者養成における「保育実践力」育成のための学びの場 - 模擬保育と学外実習に関する質問紙調査の結果からの考察 -, 四天王寺大学紀要, 第 49 号, pp.197-212(2010).
- ・斉藤葉子 大木みどり, 保育実践力を高めるための実践的アプローチその 1 - 授業実践活動における学生の取り組みの実態について -, 羽陽学園短期大学紀要, 第 9 巻 第 3 号, pp.325-342(2013).

表1 平成25年度 あそびの森 参加者数・参加家族数一覧

回	実施日	月例プログラム	参加者数				合計(人)
			家族(組)	子ども(人)	保護者(人)	保護者 内訳(母・父・他)	
1	6月1日	あそびの森にお花を咲かせよう!	44	77	50	(44・6・0)	127
2	6月29日	おもちゃを作ろう	55	120	55	(55・0・0)	175
3	7月13日	夏まつりを楽しもう!	48	84	53	(46・7・0)	137
4	8月24日	おんがくかいごっこ(午前のみ開催)	23	34	25	(23・2・0)	59
5	10月12日	絵の具でベタベタ遊びをしよう	41	82	47	(41・6・0)	129
6	11月2日	秋を楽しもう	37	63	40	(36・4・0)	103
7	11月23日	お話の世界を楽しもう	40	51	34	(30・4・0)	85
8	12月7日	クリスマス飾りを作ろう/懇話会	34	60	34	(34・0・0)	94
9	12月21日	手作り楽器でクリスマスコンサート	31	54	32	(31・1・0)	86
10	1月25日	粘土遊びでクッキー作り(ノロウィルス等流行により中止)	0	0	0	(0・0・0)	0
11	2月8日	タブレット端末(iPad)で絵本をつくろう!(積雪により中止)	0	0	0	(0・0・0)	0
小計			353	625	370		995
全 7 回	11月29日 12月6日 12月13日 12月20日 1月10日 1月24日 1月31日	ペープサートを観る会		610			7 610
小計				610			7 610
総合計				1235			1605

平成25年度「あそびの森」プログラム一覧

場所：東海学院大学短期大学部（西キャンパス）7号館5階「あそびの森」

時間：午前の部 10時～11時45分、午後の部 13時30分～15時15分

<前期>

※プログラムは、多少変更になることがあります。ご了承ください。

回	開催日	プログラム	内容
1	6月1日 (土) 午前/午後	あそびの森に お花を 咲かせよう!	今年もあそびの森がはじまりました。第1回目は、「あそびの森」にお花をいっぱい咲かせて、あそびに来るのが楽しくなるようなお部屋にしたいと思います。みんな、協力してね!!おねえさんたちと一緒にガンバロー!!
2	6月29日 (土) 午前/午後	おもちゃを 作ろう	家にある箱や袋や紙など、身近にあるものを使って、おもちゃが作れたら素敵だね。お兄さん、お姉さんと一緒に何を作ろうかな。楽しみにしてください。
3	7月13日 (土) 午前/午後	夏まつりを 楽しもう!	この日はあそびの森が夏まつりに大変身!お兄さん、お姉さんがいるんなあそびを用意して待っているの、お楽しみに!
4	8月24日 (土) 午前のみ	おんがくかい ごっこ	きょうはあそびの森の音楽会です。おねえさんといっしょに色々な楽器を鳴らしてみましょ。どんな楽器がでてくるのか楽しみにしててね。

<後期>

※プログラムは、多少変更になることがあります。ご了承ください。

5	10月12日 (土) 午前/午後	絵の具で ベタベタ遊び をしよう	絵の具遊びだけでなく、長い大きな紙の上で筆ではなく、手や足を使ってベタベタ遊びをしよう。親子とも汚れてよい服装できてね。記念に手形・足形を持って帰ろう。前より大きくなったかな。
6	11月2日 (土) 午前/午後	秋を楽しもう	わらべうたや易しいゲーム遊びで、おねえさんたちと一緒に“秋”を楽しみましょう。どんな“秋”になるかな?
7	11月23日 (土) 午前/午後	お話の世界を 楽しもう	「絵本の森」の部屋へ行って、絵本を見たり、お兄さんお姉さんに絵本を読んでもらったり、人形劇を見たりして、お話の世界をいっぱい楽しみましょう。大好きなお話に出会えるといいね。
8	12月7日 (土) 午前/午後	クリスマス 飾りを作ろう 懇話会	身の回りにある簡単な材料でクリスマスリースやオーナメントを作りましょ。また、クリスマスのお話を聞いたり、歌を歌ったりして、みんなでクリスマス会を楽しみましょう。
9	12月21日 (土) 午前/午後	手作り楽器で クリスマス コンサート	身近な素材を使って、手作り楽器を作ります。楽器が完成したら、みんなでクリスマスソングを合奏しよう!!歌ったりお話を聞いたり、盛りだくさんのクリスマス会です。
10	1月25日 (土) 午前/午後	粘土遊びで クッキー作り	おなじみになったおいしいクッキー作りをします。小麦粉を粘土に見立てて、いろいろな形を作り、私だけのオリジナルなクッキーを作ります。材料費として1家族200円を集めます。エプロン、ハンダナ(三角巾)を持ってきてね。
11	2月8日 (土) 午前/午後	タブレット端 末(iPad)で 絵本を つくろう!	「ピッケのつくるえほん」は、幼児でも指の操作で簡単に遊べるタブレット(iPad)アプリ。iPadを使って、世界で1冊のオリジナルえほんを親子で作ってみませんか?作った絵本は印刷して持ち帰ることができます!
	11~1月 金曜日午前	ペープサート 劇を観る会	幼稚園、保育所、児童館、子育てサークル等向け団体鑑賞会(開催は相談してください、出張可、団体のみ申込みいただけます)

図1 配布した案内